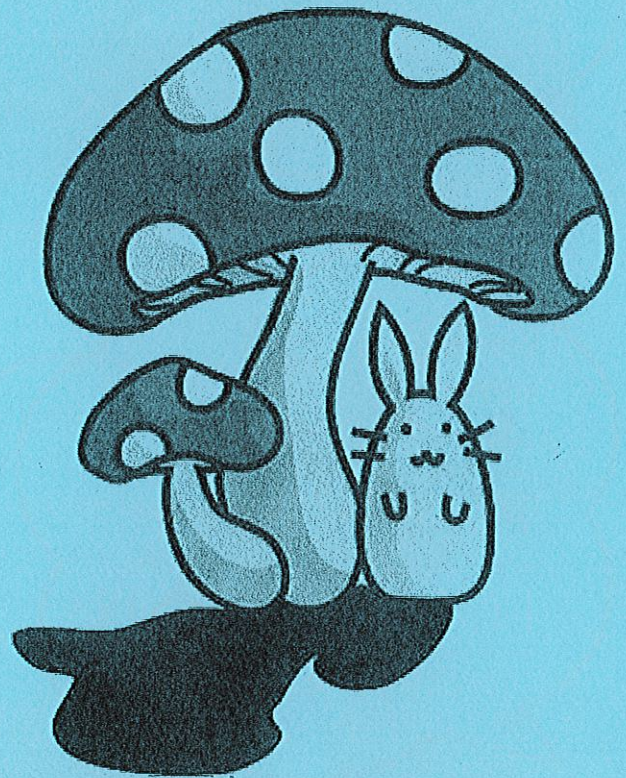


HSK こころから

61号

2017. 10

障害を
持つとうまわし
君は水か
命の重み
全て受けとる
美



昭和48年1月13日第3種郵便物認可

HSK通巻番号547号

発行 2017年10月10日(毎月10日発行)

編集 住所: 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名: 特定非営利活動法人(NPO)

精神障害者を支援する会

TEL: (011) 736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 50円(会費に含む)

新しいメンバーを

紹介します

^{わた なべ てつや}
渡辺 哲也 51才

5月29日より、心新たに
入居しました
よろしく願います



^{あり が さえ こ}
有賀 洸子

新しく来た新人ですが、
みなさんとアリマで仲良く
して、自分もみんなも
HAPPYになるように思っています!



^{ます だ はじめ}
増田 一

気が沈みやすいので、
明るく前向きに生きたいと
思います。



^{たき ちと}
滝本 敬則 です。
青森県の十和田市の出身で
北海道に来た2年になります。



よろしくお願いいたします。

^{の りん じ}
野原 地 ^{じゅんこ}
淳子

初めまして、早速たくすね
作って、いつも笑顔でい



たいです!

^{しょうかい}
スタッフを紹介します!

^{あさ けい こ}
大橋 紀子
です!



グループホーム『ひな
た』の世話人になって
半年になりました。『ひな
た』は今、五人揃って
フルメンバーです。
世話のかかる世話人
ですが、皆に支えられ、日々
楽しく過ごしています。

⑧ 明日へつなご希望求めて

— 支援する会物語 (第五回) —

細川久美子

男勝りの愛ちゃんの入居とストーブ闘争

1996年10月の中旬に、60代の愛ちゃんが入居してきました。今まで一人暮らしをしていたのですが「荷物の中にネズミが棲みついて、どうすることも出来なくなった。何とかしてほしい」と喚き、とても地域で面倒が見られないと、白石区の「生活と健康を守る会」から連絡があり、本人の意思確認も行って転居してきました。

荷物の中には、大小さまざまな消臭剤が山のように入っており、これをどう取り出すかが課題でしたが、とにかくこの妄想を取り除くことが先決で、今まで受診したことがない精神科受診が始まったのでした。

愛ちゃんは、髪は男性スタイルのカットで常に男性のような服装に身を包み、さっそうと歩く姿はかっこよく、美樹ちゃんともすぐになじんだものでした。しかしその後、若根荘のボスになってしまい、みんなに命令することをやめず、入居者のいざこざを起こしてしまい、スタッフも「こんなことに翻弄されるのは大変だ」と言うので、一人暮らしをしてもらいながら支援をすることで決着をしました。

嬉しいことに、愛ちゃんは「福祉電話」を利用してため、毎日決った時間にコールがあり、安否確認をしてもらえることでした。ある日、福祉電話の担当女性から「何度電話をかけても出てこないの心配です」と事務所に電話があり、急いで駆け付けてみると部屋の中で倒れており、救急車で病院に行ったところ、脳梗塞だと診断され、長期の入院で治療を受けたのですが、回復でき

ず、一人暮らしが無理になったため現在は老人施設で暮らしています。

この愛ちゃんが若根荘に入居する以前に住んでいたアパートは備え付けのストーブだったために、転居時にストーブがなかったので、白石保護課に「ストーブを支給してください」と申請をしたのですが、もの見事に却下されました。10月と言えば、もうストーブが必要な季節なのですが、却下されたために、ひとまず事務所の一室のストーブを外して貸すことにしました。

愛ちゃんは、知的の障害を持っており、長期に生活保護を受けていたのですが、預貯金など全くなくストーブを購入することなどできない為に、「生活と健康を守る会」の力も借りて審査請求を行うことにしました。

いままで生活保護法第56条に従って「審査請求」を行うことはなかったために、やり方など全くと言っていいほどわかっていなかったもので、道庁の保護課に聞きながら北海道知事あてに審査請求書を書き上げたのでした。審査請求書は「正」、「副」の2通が必要と言うこともこの時初めて知り、現理事長の三浦誠一さんと共に書き上げ、却下されてから60日以内に提出することが出来たのでした。(次号に続く)

審査請求の結果、

どうなったのかな？

次号をお楽しみに。



きょうされん第40回全国大会in北海道

イランカラプテ

「こんにちは」からはじめよう。



「あたり前にはたらき えらべる暮らしを

～ともにあゆもう たしかな道を いま、北★の大地から」
をテーマに、9月15日（金）～16日（土）に札幌市
コンベンションセンターで行われ、支援する会から
60人が参加し全国の仲間と学びあい交流を深めました。



<歓迎交流会> サッポロビール園「はまなす館」にて



オープニングのステージ企画
「共同作業所作り運動50年物語」

細川専務理事、山崎さん、堀田さんが登場!



歓

迎交流会で、

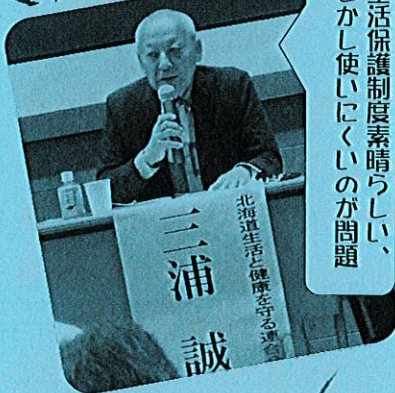
東京から一人でいらした目の不自由な男性と

お話ししました。「私は札幌の八軒から来ました」とお話ししたら、「札幌線ですね？琴似の近く？札幌の地図や路線は頭に入っているよ」といって、点字の路線本をみせて下さいました。さらに、当日、道を間違えて困らないように練習だけの為に先週もコンベンションセンターまで来たとのこと。その方はとても明るく積極的にいろいろな方に話しかけ、キラキラしていました。

全国大会に各地から参加された皆さんにそれぞれの強い志と、ご苦労があるのだろうと思いながら、私も頑張ろうと励まされた出来事でした。

(スタッフ中村晴美)

三浦理事長
パネリストで登場!



生活保護制度素晴らしい、
しかし使いにくいのが問題

特別分科会I

「生きたかった一相模原障害者殺傷事件から1年の今を検証する」

相模原殺傷事件から1年が経ち、改めて被害に遭われた方の事を思うととても悲痛です。シンポジウムの質疑応答の中で「障害者だって刺されたら痛いんです」と話す方もいました。私も本当にその通りだと思います。今までと変わらない生活をしていたはずなのに突然刃物を向けられ、訳の分からないまま命をおとってしまった方、その周りにいた方々も本当に怖い思いをされたのだと思います。「障害をもっていようと自分達と同じく生きる権利はあります！その生きる権利を奪う権利は誰にもありません！」

(スタッフ寺田詩織)

伊藤さんも、
パネリストで登場!



特別分科会II 「憲法25条と障害のある人の生活保障」

伊藤勇人さんが「新・人間裁判北海道原告」としてシンポジストで参加されました。実に堂々と発言するご様子が頼もしかったです。発言された事は、ご自身の実態であり、最善を尽くしたがやむを得ない事態に向かう中、ご家族と共に問題に取り組む姿でした。自分の事から社会へと目を向けて動く強さに敬意を感じました。

三浦理事長からは「生活保護は良い制度だが、使いにくいのが問題である」とお話しされました。又、生活保護は権利である、自分の役割を果たして一緒に生きようと呼び掛けられました。(スタッフ大橋紀子)

手

話合唱団として10名で舞台に立ちました。昨年からの練習を重ね、大会間近には手話指導DVDを使って自習をしたり、昼休みに練習もしました。「手話をやると声が出ない」「ドキドキする」「さあ・そう・さあの歌詞が混じる・・・」。板谷スタッフに歌唱指導もお願いしました。迎えた本番、体調不良で参加できなくなったメンバーがいてとても残念でした。参加したメンバーは「あまり緊張しないで表現できた」「他の作業所の人も沢山いて、そんなに心配しないでよかったんだ」「エンディングが一番楽しかった」、「来年の全国大会に参加したい。その事がきょうされん運動を広めることにつながる」と感想がありました。

2,500人がいろいろな形で大会を支え、参加しました。本当にお疲れ様でした。

(スタッフ鈴木博子)



みんなの声



●私の思い

松本 眞郎

私は2日から3日に一度、腰痛体操を2時間半ぐらいやっています。また、北朝鮮に対しては戦争をやろうと思っっているのは、一部の人間だけで、大部分の人間は平和を望んでいると思っています。

(どうですかよね)

●作業について

齊藤 麻美

私はハッピーの作業で、今まで着物のほどこきだけをしていました。初めてハートのポプリを練習で作りました。まだ、練習の dankai ですが、作ってみると楽しかったです。

(楽しいことが大切です)

●思い出す言葉

木崎 直生

最近頭がおかしい。1日1日を乗りきるのでせいじつばいだ。以前先輩が、障害に負けても自分に負けるなと言ってくれたのを思い出す。
みんなの手をかりながら、がんばります。

(仲間を信じて)

●この秋は..

林 妙子

秋、深し。私は何をする人ぞ。読書、この秋は十冊を目標！だんだん目が見えにくくなり、疲れやすくなっております。
読めるうちに読みたいと思っております。

(一生読み続けましょう)

●私の抱負

互野 利弘

私はNPO法人支援する会所属又グループホームマゼルとして入所している互野利弘と申します。今年支援する会に入って十年の月日を迎えました。今後とも精一杯努力し自身自身に勝ちます。

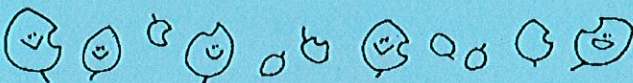
(ゆっくり生きようね)

●私ってなに？

樋口 ひとみ

他人に解ってもらう事は何て難しいのだろう。自分は全身全霊で語って説くとしても相手に伝わっていない。堪える。自分が失くなる。泣いて一夜を過ごした。ちっぽけな自分で無になる。私ってなに？

(私は私以外の何者でもありません)



小樽銭函ビーチで 海水浴、楽しかったね～♪ パチリ!



2017年8月4日(金)



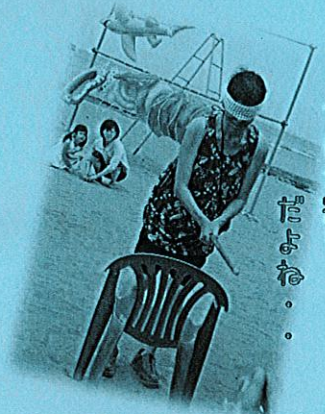
のんびりと過ごせました。
参加して良かったです。
です。野辺地



久しぶりの海、
楽しかった!!
ビールもポテトも
サイコー!! (笑)
冴子



海で吸う
タバコは
うまかった!
藤井



すいか割り?
だよね...



久しぶりの海でした。
楽しかったです。
哲也

初めての参加。
楽しかったです。
近澤



4コマまんが

『その人にまちがいありません!』



グループホーム・グリア・HAPPY
を利用する時、契約書を作成します。

《寄付金・寄贈品》
当会の活動に対し、ご支援いただき
厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

2017. 7. 21～2017. 9. 31

(有) イブ、道生連、ニチドク事務機株式会社、
ニセコ久保農園 板谷ルミ子、フジモト青果店、
田口尚之、岡崎恵治、石橋妙美、渡辺哲也、藤田
和子、鍋谷真理子、沼山恵美子、落合美津子、吉
田輝、東海林、吉田弦一、高坂瑞世、細川徹恵、
増田ゆみ子、内田民江、野辺地淳子、斎藤麻美、
サトウ、浜林、内山、フジモトアキラ、菅原、市
村、小松、笹尚美、鹿野内、高谷均、田代幸雄、
オйкаワ、きょうや電気、木崎直生、小島智子、
板橋由美子、春木由春、阿部幸一、小島修二、宮
岸真澄、宮岸文子、門田久美子、酒井はるよ、安
彦、山本ゆき子、田中よしお、市村、米澤康子



～ご協力をお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか?』

いつもご協力いただきありがとうございます。
支援する会では“書き損じハガキ”を集めていま
す。頂いたハガキは、支援する会の財政活動に使
わせて頂きます。
ご協力宜しくお願い致します。

HSK ころから

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

発行 2017年10月10日(毎月10日発行)

HSK通巻番号547号

編集人

住所:札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名:特定非営利活動法人(NPO)精神障害者を支援する会

TEL:(011)736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 50円(会費に含む)

<編集後記>

■『みんなの声』のページが人気です。「普段は話す機会のない人が、こんなことを思っているんだ」という発見があるからだと思います。今回は、理事長のコメント付きです。是非、読んでみてください。そして、今度は投稿してみてくださいね。お待ちしております!

寒くなります。風邪をひかないようにして、元気に年末を迎えましょう!(藤原)

■風邪をひきました!支援する会に入って今年で4年目…。初めて38.5℃の高熱に苦しみました(涙)。皆さん、よく食べて、よく寝る私でも風邪をひきます(笑)。体調管理に気を付けて、元気に来年を迎えましょう!(笑)。